

2024/11/11 (月)

朝の礼拝

聖書 詩編 92 編 2-4 節 (旧約聖書 914 頁)

いと高き方よ、なんと喜ばしいことか
主に感謝し
あなたの名をほめ歌うことは。
朝に、あなたの慈しみを
夜ごとに、あなたのまことを告げ知らせることは。
十弦の琴に合わせ
豎琴に合わせ
琴の調べに乗せて。

耳を澄まして

ある日の夕方、考えごとをしながら歩いていると、スマホに電話が着信、すると目の前に英和生がバスから降りてきて、大声で寄り道の相談、でも暗いのと人混みで誰だかわからない。電話は切れず、彼女たちも追えない。また課題が残ってしまいました。

そんな時、英和生と数学を学ぶ授業は楽しい。課題は課題でも答えがある。解けた時の爽快感がいい。物理や音楽も同じです。もちろんセンスもありますが、数字や法則で合理的、論理的に答えに導かれるのは気持ちのいいものです。

もうすぐ讚美歌コンクールです。合唱も音程、リズム、テンポが合うと気持ちがいいですね。物理的には空気の波動、共振、それが鼓膜に響いているからです。だから空気の流れがないと響かないし、聞こえません。音の世界には空気が必要です。

わたしたちは AI ではありません。統計や確率、関数だけでは音は伝わらないし響きません。互いの音に耳を傾け、交わされる音を運ぶ空気、風があります。聖書では風を神の息とも言います。互いに愛し合う風を受けて、共に讃美し、感謝を献げましょう。

(しばらく黙想しましょう)

慈しみ深い主よ、あなたを讃美し、感謝する歌は、あなたが共におられ、互いに愛し合う喜びを献げます。どうかわたしたちの怠り、過ち、足りないところを赦し、学び合う幸いに与らせてください。どうか今日一日も、すべてをあなたに委ね、互いに愛し合い、喜びと感謝のうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン